

学科近況

今年3月にメディア情報工学科本科から40名、専攻科から4名の学生が巣立っていきました。4月3日に入学式が行われ、10期生41名（女子学生11名）の新入生が入学してきました。2013年に1期生が入学し、本校は今年10年という節目の年を迎えました。9月には沖縄高専創立10周年の式典が持たれます。新設の学校として開校時には最新の教育設備を導入しましたが、10年が経って陳腐化を否めなくなってきています。そこで、この4月にプログラミング演習室の機器を最新のものに更改しました。引き続き本年度中に、コンテンツ演習室の機器、ネットワーク実習用機器、ロボット実習用機器等を更改する予定です。タイ国から2名の大学生が、3月から2カ月間インターンシップを行いました。学生の皆さんには、グローバル化を実感できる良い機会になったと思います。

（学科長：角田 正豊）

各学年の話題（1年生）

ついこの間入学したばかりと思っていたら、早くも3ヶ月が過ぎ、初めての関門である前学期中間試験も終わりました。今回の試験で良い点を取れなかった学生には、今からでも遅くはないですから、分からないところや不安があるところを各科目担当教員に質問し、出来る限りそのような箇所を残したままにしないようにしてもらいたいと思います。何事も最初が肝心です。

一方、今回の試験である程度以上の点を取ることができた学生も注意が必要です。低学年のうち、まだ中学校までに貯めてきた所謂「勉強の貯金」を活かして、一生懸命勉強せずともそこそこの点数は取れてしまうかもしれません。しかし、講義が進んで内容が難しくなったり、更に学年も進行し、専門科目が増えてくると、きちんと対策を講じなければ、直ぐに成績は下がってしまうと思います。1年生のうちからコツコツと予習・復習をする勉強癖をつけていくことが、今後成績を下げないためには必要なことです。

2年生までは学級主および副担任と学科担任の

3人体制でおもに学生のサポートにあたります

（註）。学生は勉強のことだけでなく、寮や学校での生活のこと、友達のこと、将来のこと、などに関して色々不安に思うことや悩んでしまうことがあるかもしれません。しかし、何か心配事や困った事がある場合は、我々担任に遠慮なく相談して欲しいと思います。保護者の皆様も何かお聞きになりたいことがありましたら、どうぞ、お気軽にご連絡下さい。

註：3年次以降はクラスが学科毎に分かれ、学科主および副担任がおもに学生のサポートにあたります。また、5年次からは2名の学科担任を中心に各卒業研究担当教員がそれぞれの研究室に配属された学生をサポートします。

（1年学科担任：佐藤 尚）

各学年の話題（2年生）

第2学年は学科別の学級がはじまる前の学年です。沖縄高専に入学する前にそれぞれの学生が考えた将来の夢は、高専に入学し、卒業したら、シ

STEMエンジニアになりたい、自動者関係の仕事に就きたい、プログラミングができる仕事をしたい または 大学に編入したいなどでした。しかし、一般科目に関する工学の基礎知識の教育やメディア情報工学科に不可欠なプログラミング技術を学ぶ科目や他の専門科目の影響で2年生になって、今まで考えた夢よりも卒業を目指すという新たな目標になりました。その目標を実現するため現在一所懸命頑張っています。勉強以外の活動として今月6月26日の学科別LHRの時間を利用して今年の4月に入学してきた1年生の後輩とサッカーのグラウンドで交流をしながら情報交換を行う予定です。さらに来る8月10日に辺野古前上原公園で親睦会をする予定です。

(2年学科担任：バイティガ ザカリ)

各学年の話題 (3年生)

第2学年までは4学科を混ぜて作られた「混合学級」でしたが、第3学年からは学科ごとに分けた学級となります。すなわち、基本的には、この3学年の仲間たちと一緒に卒業まで学校生活を送ることになります。

4月に始まった新しいクラスは、学級委員長や副委員長などのクラスのまとめ役を中心に仲良く日々の学生生活を送っており、これからが楽しみなクラスとなっています。4月27日に開催された体育祭では、優勝は逃したものの、各種目で参加者それぞれが精一杯頑張りました。スポーツに参加するだけでなく、メディア3年の学生が中心になって大会の様子を発信したり、実況放送したりして大会を盛り上げるのに大活躍していました。

話が変わりますが、今年度は5月から6月にかけて、メディア3年の全学生と個別面談を行っています。自分の将来の夢や進路についてしっかりとした考えを持っている学生も少なくありませんでしたが、まだ自分がどのような道に進みたいのか決めあぐねている学生が大半でした。就職を考えているが具体的な職種はまだ決めていない、進学を考えているが何を勉強したいのかどんな大学に行きたいのか分からない、といった状況の学生

が多いようです。このように進路について迷っている学生に対しては、一つでもいいので何か積極的にチャレンジして、これは頑張ったといえるものを作るように伝えました。就職活動や進学活動に必ず役に立つ「資格」の取得を薦めたりしています。

最後に「研修旅行」についてご説明いたします。今年度は以下の日程で実施する予定です。

11月27日(水) 那覇空港集合>那覇空港発>羽田空港着>東京スカイツリー・第1展望台>ホテル着
11月28日(木) 各グループがそれぞれの研修計画に基づき自主研修(大学・企業訪問など)
11月29日(金) 企業視察研修・メディア卒業生との懇談会、など調整中。
11月30日(土) JAL整備工場見学>羽田空港発>那覇空港着>解散

なお、企業見学の際にはスーツが必須となりますので、まだご用意されていないご家庭では、お早めにご準備くださいますよう、宜しく願いいたします。宿泊先は「両国ホテル」を予定しております。また、積立していないご家庭は一括の支払いをお願いします。この研修旅行の経験は必ず学生達の将来のインターンシップ(第4学年)や就職活動及び進学活動(第5学年)に役に立つので、有意義になるようにご協力をお願い申し上げます。その他、飛行機の出発時刻や空港への集合時間などにつきましては、決まり次第、早急にご連絡いたします。

(3年担任：タンスリヤボン スリヨン)

各学年の話題 (4年生)

学級状況

学科別クラスも2年目となり、落ち着いた雰囲気新学期をスタートしました。4月の体育祭やクラスレク「広島風お好み焼き」でクラス内の親睦が深まり、より明るく楽しいクラスになりつつ

あります。また、ほとんどの学生が資格取得、成績向上、やってみたかったことを行動に移す、といった個人の目標をもち、前向きな気持ちを持っています。4年生は比較的自由な時間がありますので、学生自身で時間を上手に使ってそれぞれの目標を達成してほしいと思います。

進路については、インターンシップの授業時間を通して学生が自分に合った進路を選択できるように指導していきます。来年（平成26年）2月の期末試験終了後から志望動機を書く等の就職・進学活動が本格化します。現時点では様々な可能性を考える時期で、学生の考えがころころ変わることもあると思いますが、保護者ともその考えを共有していただきたいと思います。

（4年担任：太田 佐栄子）

インターンシップについて

4年生は、高専生活も中盤を過ぎ、就職・進学など進路を決めなければならない時期に差し掛かってきました。沖縄高専では、「インターンシップ」という必修科目があり、県内外の企業等での就業体験を通し、働くということや社会について学ぶ貴重な機会となります。学生たちは、本校で学んだ専門知識や技術を企業等においてどのように活かすことができるのかを体験したり、将来の希望する職種に近い職場を選び実際の就職先として働くイメージをつかむことができます。また、学校で学ぶことができない社会のルールや職場の雰囲気、働くということについて活きた体験として学ぶことができます。

本年度のインターンシップは、8月12日から9月22日までの夏休みの期間に、約2週間程度の就業体験をする予定です。学生たちは現在、希望する企業等の研究や履歴書の作成を進めており、初めて作成する履歴書の書き方について学ぶとともに、学校で主催するビジネスマナー講習会で挨拶や身だしなみなどの基本的なことについて学ぶなど、一步一步社会へ羽ばたくために成長し始めています。学生一人一人にとって、少しでも成長の糧となるよう、教職員一同一丸となって指導して参りたいと思いますので、保護者の皆様におかれ

ましても、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

（4年副担任：鈴木 大作）

各学年の話題（5年生）

高専に入学して5年目を迎えました。4月17日に行われた体育祭ではクラス全員が一致団結して学年優勝し、級長の桑野絵維子さんがMVP賞を受賞するなど、4年間一緒に過ごし、気心のしれたとてもよい雰囲気クラスです。今は11月に予定されている高専祭の準備をすでに始めています。高専生活最後の高専祭に向けてかなり力が入っています。どのような出し物が出るか期待が持てません。



写真：体育祭の様子（5年メディア）

5年生は卒業後の進路を決めることが一番重要です。6月24日現在で卒業予定者40名中、進路別希望は進学希望11名（27.5%）、就職希望29名（72.5%）となっています。そのうち進学先が決定した学生は5名（45.5%）、就職先から内々定が出た学生は22名（75.9%）です。就職状況は2008年のリーマンを機に急激に状況が悪くなっていましたが、年々徐々に改善が見られ今年は1期生に次ぐよい状況です。学生全員が希望する進路に進めるよう進路指導に努めて参りますので保護者のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

（5年担任：正木 忠勝）

専攻科の話題（情報工学コース）

編集後記

メディア情報工学科専攻科は創造システム工学専攻情報工学コースが正式名称です。専攻科では、本科の卒業研究に当たる、特別研究を学校生活の中心に据えてください。特別研究で取り組んだ内容は、学協会の研究会或いは全国大会において对外発表を行ってください。この内容が学協会の論文誌にジャーナル採録されればベストです。以上を専攻科1年次に終えることを目標としてください。そうすれば、専攻科2年次夏の、学位授与のための学修成果レポートにスムーズに持って行けます。また、就職試験や大学院入学試験において、専門性を主張する際の拠り所となります。特に就職試験の場合、本科生との差別化をはかるために専門性の主張は重要です。専攻科の2年間はあつと言う間に終わります。以上を踏まえて、早め早めの取り組みを心がけてください。

（副コース長：姉崎隆）

学科だよりも平成25年度で8年目となります。本校に最初の学科別学級が出来た平成18年度に3年メディアの担任を担当し、「学校の様子がわかりにくい」という保護者の方からの声もあり、学校と家庭とをつなぐ通信があれば、との考えから、A4両面の簡単なものを作ったのが最初でした。以来、発行頻度などの変化はありましたが、何人もの編集担当者を中心に学科全体の取り組みとして続いてきました。久々に学科だよりの編集を担当させていただき、各学年の状況をまとめて見ると、一般的に15歳から20歳まで（専攻科だと22歳まで）という、不安定で変化の大きい時期に学ぶ高専の教育課程には勉強以外にも実に様々な教育的課題があるものだと、改めて認識しました。学科教員一丸となって、多様な教育的課題に向き合っていきたいと思います。学科だよりに関するご意見ご要望がございましたら、是非下記連絡先までお知らせください。また、学校に対してお持ちの疑問・要望、また他の保護者の方々にも知って欲しいことなどを投書して下さることも大歓迎ですので、是非お気軽にお便りをお寄せ下さい。

その他学科内の話題

資格試験合格者

基本情報処理技術者試験

- 4年メディア 上原 可意さん
- 4年メディア 菊池 陽平さん
- 4年メディア 金城 絵理奈さん

受賞

名護市男女共同参画週間標語

最優秀賞

- 3年メディア 山城 優さん

優秀賞

- 3年メディア 加藤 克也さん

編集担当者連絡先：

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古 905
沖縄工業高等専門学校
メディア情報工学科 西村篤
TEL 0980-55-4003（代）
FAX 0980-55-4012（代）